

第32期第10回常任理事会議事録

日時：2003年5月21日（水）17時00分～18時00分

会場：つくば国際会議場403号室

出席者：廣田，古川，勝山，神沢，木田，近藤，住田中，藤部，萬納寺，山内，11人

その他の出席者：館（事務局）

1. 第32期第9回常任理事会議事録の確認
2. 第32期第1回評議員会議事録の確認
3. 各委員会等の報告

庶務…2003年度総会参加票の集計結果について

総会参加票の集まりが去年より悪い。去年までは総会資料と参加票を天気とは別に送っていたが、今年は天気と一緒に送ったのが原因の1つかもしいない。ほかにも問題点はないか、検討が必要である。

- ・平成15年度科学研究費補助金研究成果公開促進費「研究成果公开发表」の審査結果について

東北支部，北海道支部が研究成果公開促進費を申請していたが，不採択となった。「研究分野が過度に専門的で狭い領域である」という理由に納得がいかない，講師を呼ぶなどしてもっと多額の予算（数十万円ではなく，例えば数百万円）で申請してはどうか，などのコメントがあった。

- ・平成15年度科研費補助金（研究成果公開促進費）の交付の内定について
気象集誌の補助として490万円（去年と同額）が交付される。

- ・科学研究費補助金に係る審査委員候補者の推薦について

分科「地球惑星科学」第二段，細目「地球宇宙化学」第一段，細目「環境動態解析」第一段，細目「環境動態解析」第二段，細目「自然災害科学」の審査委員候補者を各1名推薦した。

- ・（財）日本学術協力財団へ平成15年賛助会費（50,000円）納入

会計…2002年4月分の収支報告

天気…Vol. 50 No. 5（2003年5月号）の掲載記事とVol. 50 No. 6（2003年6月号）掲載予定記事の報告。

- ・電子ジャーナル版天気へのアクセスを調査したところ，3月下旬から5月中旬にかけて，1日あたり約18件だった。これに対してアクセスが少ないのではないか，とのコメントがあった。

- ・IUGGの報告記事の取りまとめの方針を5月号でお知らせする。これに対して，シンポジウムやワークショップだけでなく，アウトリーチの報告も加えてはどうかとの意見があった。

気象集誌…Vol. 81 No. 4の内容を報告。

- ・メソ気候モデルの企画提案があった。特別号は1年に1つと決めているが，今年度はGPS気象学特別号が企画されているので，これは「特集号」として通常号の枠に収める。

- ・電子ジャーナル版集誌もアクセス統計を調べてみたい。

- ・例えば日本人の論文数の調査を行うなどして，評議員会の山元会員の意見に答える必要があるのではないか，との意見があった。

講演企画委員会…来年2004年の春季大会は気象庁本庁の担当である。今年4月に気象庁参事官に実行委員会の立ち上げについて協力をお願いした。

- ・今大会では土曜日までの4日間開催を試行したが，土曜日だけの参加者の所属を記録しておきたい。

- ・コストが増えるが，予稿集を再生紙で印刷したいと提案され，これを了承した。

総合計画…5人ほどのレター誌検討委員会を立ち上げ，大会期間中に開催する。

電子情報…2003年4月1～30日の気象学会ホームページのアクセス状況(63,338件)。春季大会プログラムが公開され，アクセス数が増えた。

- ・3月，4月のメイリングリスト配信記録（それぞれ1件，4件）

環境…今後，毎年，春季大会の専門分科会を利用してシンポジウムを開催したい。学会以外からも招待する。一般向きとすれば，「専門分科会」という名称は不適切ではないか，とのコメントがあった。

4. 会員の新規加入等について
新入会員44名を承認, 退会3名. 5月16日現在,
会員数4,395名(内, 通常会員3,921名).
5. 2003年度総会資料について
資料を確認した.
6. アジア・オセアニア地球物理学学会(AOGS)への参

加について

2004年7月にシンガポールで開催される第1回アジア・オセアニア地球物理学学会大会へ, 津田会員が台湾と共同でセッションを提案している. 日本気象学会は第1回AOGS大会を後援する. 費用の負担はない.

第32期第4回理事会議事録

日時: 2003年5月21日(水) 18時00分~19時30分

会場: つくば国際会議場403号室

出席者: 廣田, 古川, 伊藤, 岩崎, 勝山, 神沢, 木田,
近藤, 佐々木, 住, 田中, 津田, 中澤, 新野,
藤部, 藤吉, 萬納寺, 山内, 米谷, 以上19人

その他の出席者: 栗原(東北地区後任理事候補者),
田口(産業総合研究所),
菅田(国立環境研究所), 木村(筑波大学);
以上3人実行委員会, 館(事務局)

議事に先立ち, 廣田理事長から春季大会が順調に行われていること, 総会成立の要件を満たしていることが紹介され, 実行委員会に感謝の意を表明した.

議事:

1. 2005年度日本気象学会春季大会の担当機関について
2005年春季大会は東京大学が担当する.
2. 支部活動の費用について

2003年秋季大会の会場使用料増加による大会交付金の増額が東北支部から依頼され, 常任理事会で承認したことが報告された.

関連して次のような意見が出された.

この先10年くらいの学会の財政基盤をどうするか
の計画が必要である. 大会の運営に労力をつぎ込んで
安い参加費を維持するのか, 人を雇って参加費を
高くするのか, という選択肢がある.

東京の夏季大会は一般から参加費を集めて開催し
ていて, 黒字である. 会場費と謝金は払っているが,
ボランティアの労力提供もある. 大阪では講演会な
どで無料だと人がたくさん集まるが, 有料だと人が
来ない.

研究を標榜する機関は学会活動を支える義務があ

る. 大学が独法化されると機関の裁量でお金が使え
るようになり, 研究者の大会への参加費や登録料な
どを研究費で負担できるようになるだろう. 参加費
や登録料を研究費から払える人は払う, 払えない人
は控除というような工夫が必要. 競争的資金で研究
費には大きなお金が流れている.

文科省への申請など, 支部活動の経費を工面す
るよう工夫, 努力してほしい. うまく行く事例を作
れると良い.

3. 2003年度総会資料について
資料を確認した.
4. IUGG2003について
すでに3000人が登録したが, 会計上は楽観できな
い. 準備は順調だが, SARSの影響が懸念される.
また, アウトリーチの計画が報告された.
5. その他

日本気象学会は, 2004年7月にシンガポールで開
催される第1回アジア・オセアニア地球物理学学会大
会を後援する. 費用の負担はない.

東アジアの気象学会の交流を進めるため, 韓国,
中国の気象学会の研究者を招待した. しかし, 中国
からの参加予定者がSARSの影響を配慮して来日
を取り止めたため, 韓国からの招待者だけとなった.

実行委員会から, 経費で苦労したとの報告があっ
た. 今回は試行で4日間開催したが, 3日で5会場
か, 4日で4会場か, という選択肢がある.

平成15年6月16日

社団法人日本気象学会

議長 萬納寺信崇

署名人 勝山 税

署名人 古川 武彦